



# 松田権六の仕事場

## 関連資料展示

### 松田権六の道具

#### 左ケース

- 1：鯨箆（くじらべら）
- 2：中尊寺金色堂の解体修理の時に出てきた平安時代の  
刷毛を模して作られた刷毛
- 3：檜の皮で作った箆
- 4：上塗り専用の刷毛
- 5：地塗り専用の刷毛
- 6：細く塗るための刷毛
- 7：小刷毛
- 8：あしらい毛棒（けぼう）・・・蒔絵粉を扱うための筆の一種
- 9：鼈甲製の蒔絵筆用の洗い箆
- 10：大小の針金で作られた「引掻き」用筆
- 11：ぶんまわし・・・コンパス
- 12：犬牙（けんき）・・・柄の先に犬の牙を取り付けた道具
- 13：鯛牙（たいき）・・・柄の先に鯛の牙を取り付けた道具
- 14：各種蒔絵筆
- 15：粉筒（ふんづつ）
- 16：塗師刀（ぬしがたな）
- 17：槍鉋（やりかん）
- 18：彫刻刀や各種の切出小刀

### 遺愛の品々

- 19：フェルト帽
- 20：腕時計
- 21：筆記用具
- 22：眼鏡

### 粉筆筒の引出

#### 中央ケース

- 23：粉鎮（ふんちん）  
・・・蒔絵用の金銀粉を入れた粉包みを押さえるために用いる重し
- 24：粉匙（ふんさじ）・・・蒔絵用の金銀粉をすくうのに用いる小さじ
- 25：鳥軸製粉筒
- 26：爪盤（つめばん）・・・蒔絵を描く際に漆をのせておく小さなパレット
- 27：あしらい毛棒
- 28：払い毛棒

### 松田権六と石川ゆかりの作家作品

#### 中央ケース

- 29：角偉三郎《練金文合鹿椀》1992年
- 30：松田権六監修《平安棗》（大・小）
- 31：松田権六監修《自作棗》（小）
- 32：松田権六所蔵、赤地友哉塗《雪吹》
- 33：赤地友哉《はりぬき朱八角中次》1977年
- 34：田崎昭一郎《日の出波蒔絵平棗》
- 35：小森邦衛《網代縞文重箱》1991年

#### 右ケース

- 36：塩多慶四郎《乾漆盤 華》1983年
- 37：塩多慶四郎《乾漆食籠 亀甲》1989年
- 38：寺井直次《鶴蒔絵平棗》1997年
- 39：大場松魚《平文不二和光平棗》

### 蒔絵で使われる素材

- 40：夜光貝
- 41：貝の真珠層部分を薄くはいだもの
- 42：アワビ
- 43：メキシコアワビ
- 44：卵殻（ウズラ）
- 45：象牙
- 46：平文用の各種素材